

平成29年10月10日

報道機関 各位

富山大学・テイカ製薬株式会社

平成29年度のAMED「産学連携医療イノベーション創出プログラム」セットアップスキーム【ACT-MS】に採択

富山大学はテイカ製薬株式会社と共に、難病の自己免疫病である全身性エリテマトーデスに対する新たな治療薬の開発に取り組みます。

富山大学大学院医学薬学研究部（医学）免疫バイオ・創薬探索研究講座（富山県寄附講座）の長井良憲（ながいよしのり）客員教授、高津聖志（たかつきよし）客員教授の研究課題が、テイカ製薬株式会社をセットアップ企業として、平成29年度の国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「産学連携医療イノベーション創出プログラム」セットアップスキーム【ACT-MS】に採択されましたので、お知らせいたします。

つきましては、下記にもとづき、取材・報道方よろしく願います。

記

研究開発課題名：TLR7を標的にしたSLE治療薬の開発

課題リーダー：長井 良憲，富山大学大学院医学薬学研究部（医学）・客員教授

セットアップ企業：テイカ製薬株式会社

実施予定期間：平成29年10月5日～平成31年3月31日

AMED ホームページ：http://www.amed.go.jp/koubo/020220170224_kettei.html

■ 背景と目的

自己免疫病である全身性エリテマトーデス（Systemic Lupus Erythematosus：SLE）は厚生労働省指定の難病の一つで、これまでに承認された治療薬は少なく、医療ニーズが存在する重要な疾患です。SLEの治療には、ステロイド剤、免疫抑制剤、一部の抗体医薬が使用されていますが、不十分な治療効果、副作用の発現と高額医療費負担が問題であり、新しい治療薬の開発が求められています。



近年、SLE の病態に重要な役割を果たす Toll 様受容体 7 (Toll-like receptor 7 : TLR7) が新たな治療標的分子として注目されています。富山大学では、テイカ製薬株式会社と協力し、TLR7 の活性化を特異的に阻害する低分子化合物を見いだしました。本化合物はヒト免疫細胞における TLR7 活性化も阻害することから、本化合物を基にした治療薬の開発が期待されます。本研究の実用化により、自己免疫病治療の残された課題である SLE 治療に対して、インパクトの大きい貢献が期待できます。

■ 本事業の取り組み

本事業では、産業技術総合研究所及び東京大学と共同で、より強い TLR7 阻害活性を持つ化合物を設計し、合成と有効性評価を進め、最適な TLR7 活性化阻害剤を見いだします。また、テイカ製薬株式会社と共同で、合成化合物の薬物代謝及び体内動態を解析し、最適な化合物の設計や合成に生かします。さらに関西医科大学と共同で、新たに合成した化合物のヒト免疫細胞における有効性を解明します。

以上より、最適な TLR7 活性化阻害剤を複数個に絞り込み、今後、非臨床試験を開始することを目指します。

■ 用語解説

- 自己免疫病：免疫系が外来異物ではなく、自己の抗原に反応し、自己抗体等により組織・臓器障害が生じる疾患の総称。
- 全身性エリテマトーデス：若年～中年の女性に好発する難治性の自己免疫病の一つで、皮膚、腎臓、肺、脳等の様々な臓器に障害が生じる。
- Toll 様受容体 7：ウイルスの RNA を認識する受容体で、抗ウイルス活性を誘導する。一方、自己の RNA を認識し、自己免疫病の発症・増悪に繋がることが示唆されている。

■ 取材対応：下記の問い合わせ先に電話またはメールでご連絡下さい。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学大学院医学薬学研究部（医学）
免疫バイオ・創薬探索研究講座
客員教授：長井 良憲
TEL：076-434-7673
E-mail：ynagai@med.u-toyama.ac.jp